

## 平成28年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人純正福祉会 青葉保育園

### 評価項目の達成・取組状況・これから改善したいこと

評価項目	取組状況
I 保育の計画性	社会福祉法人純正福祉会の保育理念や保育方針に基づき保育課程をつくり、各年齢、クラスごとに年間計画・月案・週案を立てた。0歳から2歳までは、子どもの育ちを見通した個人の生活習慣形成年間計画を作り個別に指導計画を立てた。3歳以上児も一人ひとりの子どもに必要な生活体験から得られる保育を展開するのに必要な具体的な保育計画を立て保育を行った。
II 保育の在り方 幼児への対応	3歳・4歳・5歳児は異年齢混合保育を行う中で思いやりやいたわりの気持ちが育ち、様々な友だちと共に活動できる場と個々にやりたいことが十分に行える場を作り、必要に応じ保育士の援助で達成感が味わえるようにした。保育士や友だちとの安定した関係の中で意欲的に生活や遊びを楽しむ姿が見られた。
III 保育者としての 資質や能力・良識・適性	自園の保育理念や保育方針から、どんな子どもに育って欲しいと願っているのかその時々子ども像を互いに摺合せ、そのために保育者としてどのように援助すればよいかを職員会議や園内研修、自主研修を通して学び保育士同士の研鑽の場にした。
IV 保護者への対応・守秘義務	毎朝、受け入れ時に子どもの様子を尋ねながら必ず保護者と言葉を交わすようにし、降園時もその日の出来事や子どもの様子を知らせるようにした。また、保育参観や懇談会、行事等を通して子どもの園での様子や育ちを伝えるとともに子どもの気持ちや行動、心身の成長の姿の理解が深まるようにした。保護者や子どもについての知り得た情報は秘密保持を厳守している。
V 地域の自然や社会との かかわり	地域や理事の方々の助けにより、じゃが芋やさつま芋、野菜の収穫体験を通して季節の自然の変化や身近な動植物に興味や関心を持つことができた。また、園外に出かけたときは、地域の方々に親しみをもって日常の挨拶をし、公共の場(公園)のごみを拾う活動を子どもと共に行った。更に、地域のイベントや夏祭りに積極的に参加することで地域の人々と子どもを中心に触れ合うことができた。
VI 保育者の専門性に関する 研修・研究への意欲・態度	今年度も組織の理念や方針などの共通理解のために、新年度を迎える前に職員全員で研修会を行った。子ども一人ひとりの課題またはクラス全体の課題を明確にするために、クラスでの話し合いを随時自主的に行った。その中でこどもの課題だけでなく保育士自身の課題にも気付くことができ、外部講師を招いての研修や助言、同法人の他園からの保育参観、勉強会も行った。また、個々の保育士に応じて計画的に研修参加を実施した。
VII 保育の在り方、 3歳未満児への対応	子どもの月齢や年齢に応じて個々に発達の指導計画やデリープログラムを立て担当制の保育を行っている。特に食事・睡眠・排泄・着脱は一人ひとりの発達や状況に応じて、個々の担当保育士を中心にクラスで丁寧に対応していった。また、遊びを通して運動発達や情緒の発達の未熟な部分をどう援助していくかをクラス課題にして取り組んだ。
VIII 地域における子育て支援	毎月2回行われる地域公開保育の他に、園の見学希望者に各クラスを案内し、自園の保育内容を説明したり乳児や幼児の育児や保育に関する相談に応じたり助言を行った。